



通信

認知症
三二講座⑥

「周辺症状」の代表的なものに「徘徊」と呼ばれる行動があります

多くの人は「徘徊」という行動に対して「なぜしたら落ち着いてもらうことができるか、対応に困る行動」と感じることが多いようです。本人は「徘徊しよう」と思って、目的も無く歩き、迷子になるわけではありません。ちゃんとした理由があるのです。では、どんな理由から起るのでしょうか。

行動のパターンや理由を知ること、関わり方のヒントが見えてきます

- ① 何らかの目的や必要性を感じて歩く
- ② 来た道が覚えられない
- ③ 時間と方向、距離感が分からなくなる
- ④ 目的があつたが内容を忘れて歩き続ける
- ⑤ 病気の症状から同じルートを歩くことを繰り返す
- ⑥ 幻覚や錯覚から

周辺症状 徘徊

「周辺症状」は、認知症の方の性格や生活環境、もともとの素質によつて、出てくる症状が異なります。「認知症」の方、誰もが現れる症状ではありません。



と、パターンはさまざまあります。そして、みなさんに知っていただきたいことは、ほとんどのパターンがその場に自分がいる必要性を感じられない

時・状況に納得していない時、症状となつて現れることが多いということ、です。どのようなことなのか具体的に、私が関わつた方の事例を紹介します。

● 自分の家にいるのに「子どもが帰ってくるから家に帰る」と言つた方

家族の世話を生きがいにして、毎日生活してこられた方です。「認知症」の症状が出ることにより、1人でできなくなつたりさせてもらえなくなつたり、機会を失つてしまったことに折り合いがつかず症状となつて現れました。

● 運転が危ないと、周りに車を処分させてしまった方

この方は「自分の車を探しに行く」とどこまでも歩き続けました。自分の住所、今居る場所の理解はできても、距離や時間の感覚が分からなくなつていきます。「認知症」になり、車を処分し

たことを忘れて、まだ車を運転していると思つています。

症状を悪化させる原因と対策

まずは理由を知り、一緒に付き添うことが重要です。しかし、居なくなつた方を何度も探しに行くことは家族の体力や精神共に大きな負担となります。無理に引き止めたり閉じ込めたりしがちになり、そのことが症状を悪化させる原因になつてしまうこともあります。

ご家族だけで抱え込まずに、周りに協力をお願いすることも大切です。その方をよく知っている近所の人や親類の人に「一緒に帰りましょう」と声を掛けてもらつと、案外すんなりと受け入れてもらえる場合があります。また、専門の病院や役場に相談しましょう。「きらめき」でもご相談を承ることができます。安心してお声掛けください。

坂井きらめき 石川 陽子

お問い合わせ先 15ページコールセンター

認知症カフェ(丹南きらめき)

いつまでも「あなたらしく」過ごすためには、心身ともに健康であることが大切です。丹南きらめきでは認知症カフェを「夢カフェ」として開催し、認知症の方やご家族、地域の方などが、お茶やおしゃべりで楽しみながら、交流や情報交換、認知症についての理解を深めています。

参加者からは、「ここに来るとたくさん笑つていられるで、いいんやあ」また、来月会おうのー!」などの声をいただいています。毎回、笑いや話が絶えず、あつという間にカフェの時間は過ぎてしまいます。

認知症カフェでは「高齢者の閉じこもり予防」「認知症の正しい理解、予防」「地域のつながり強化」などが期待されます。みなさんもお気軽にお立ち寄りください。



各地域のカフェ ※詳細はお問い合わせください

- この街カフェなごみ 福井市木田 毎週木曜日 羽水きらめき TEL.0776-32-6000
- いっぶく茶屋 福井市宝永 毎週金曜日 宝永きらめき TEL.0776-24-0800
- 夢カフェ(家久) 越前市家久 毎月第3木曜日 } 丹南きらめき TEL.0778-22-7776
- 夢カフェ(大虫) 越前市大虫 毎月第4火曜日 }